

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要				担当局	環境局	
				担当課	環境学習課	
事業名 北九州環境みらい学習システム推進事業				課長名	東田	
				施策番号		I - 3 - (3) - ①
事業概要 本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等と結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行います。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他		
						(人件費備考)
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	人件費	課長	0.10 人
		7,150 千円	千円		係長	0.15 人
					職員	0.30 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	既存の観光案内所を活用して試行的に実施している環境情報の案内業務は、平成23年度の開設以降利用者が減少しているため、費用対効果をふまえ、あり方を見直す必要があります。また、多世代の多くの市民が、環境に関する知識や行動力を身に付けることができる仕組みづくりを行うとともに、育成した人材が活躍できる場づくりを行うことが必要です。 環境情報の案内業務については、利用実績をふまえ、平成24年度末で廃止しました。また、多世代の多くの市民が具体的な行動に結びつける仕組みづくりについては、市内の充実した環境学習施設等と連携し、効果的な学習や体験となるような手法の検討を進めます。さらに、育成した人材の活躍の場については、有意義なものとなるよう本市の環境学習拠点である「環境ミュージアム」の指定管理業務等の中での対応を検討します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	「環境未来都市」の基盤となる持続可能な社会づくりに向けて、原動力となる「市民環境力」の醸成・向上を目指し、低炭素社会の基礎知識から実践フィールドまでを学ぶことを通じて、ライフスタイルの変革などの行動を起こすことのできるあらゆる世代の人材を育成します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	行動変革を実行する市民環境力を醸成・向上させる					
	環境への取組において行動変革を実行することは、市民一人ひとりが日々の生活の中で身近にできることから始めることが重要となることから、「アンケート調査」内の毎日の暮らしの中で環境活動を実行している人の比率(各取組の平均)を指標として設定しました。 (最終目標と目標年度) 80% (H26年度)			80.0 %	%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どのようにして目的を達成するか ○環境学習施設等で実施している学習プログラムの集約と連携による効果的な体験学習の企画・提案 ○啓発冊子の作成・配布やホームページ等の充実等による情報発信の強化 ○充実した環境学習(エコ)ツアーの企画・実施及びノウハウを持つ民間やNPO等による実施促進 ○継続してシステムを支える人材育成の仕組みづくり強化などを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	エコライフステージ・企画運営への参加者数				
	本システムのアウトプットである、行動変革を伴う市民環境力を示す指標です。		10,000 人	%	
	エコツアー参加者数		5,000 人	%	
	エコライフの推進などの行動変革に向け、導入となる環境学習への関心・意欲を示す指標です。今後はツアーのビジネス化等民間事業者などが主体的に実施する仕組みづくりを推進します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
I - 3 - (3) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
課長	0.15 人
係長	0.15 人
職員	0.30 人

事業概要				
事業名	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務			
事業概要	環境ミュージアム及びエコハウスは、北九州市全体の環境力を高めるための重要な施設です。地球温暖化や廃棄物問題などの環境問題の原因の多くは、市民一人ひとりの日常生活の積み重ねにあります。環境にやさしい持続的な社会を実現するためには、学校、企業、市民、市民団体、行政それぞれが主体となり、相互に連携して取り組む必要があります。			
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)
		75,734 千円	千円	
			目金の金額	課長 0.15 人 係長 0.15 人 職員 0.30 人
			5,475 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	環境学習サポーターの月例学習会参加数や館内活動数は十分ですが、地域の環境リーダー育成のためには、館外活動である出張ミュージアムの更なる推進が必要と考えます。またサポーターの高齢化が進んでいるため、多様な世代を取り込む必要があると考えます。	見直し内容	館内にとどまらず、館外の活動である「出張ミュージアム」を充実させ、市全体の環境力向上を図りたいと思います。同様に、スタッフとサポーターの連携をより強化しながら、公害についてのツアーや工場案内など適性に応じた場など、サポーターが活躍できる環境の確保に努めるとともに、募集を工夫し、多様な世代の取り組みに努めます。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
環境学習サポーター	環境学習サポーター	環境ミュージアムを拠点として活動している環境学習サポーターを、地域の環境リーダーへと育成します。来館者に公害克服の歴史を始め、廃材を活用したエコ工作やごみの分別の仕方、3Rに関する紙芝居などアクティビティ(体験活動)の実施を通して、環境について分かりやすく説明を行います。	25年度実績	26年度実績 (達成率)
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数	26年度目標	26年度実績 (達成率)
	育成されたサポーターは、地域の環境リーダーとして、学校や市民センターなど地域に出かけて活動します。ミュージアム外の活動である「出張ミュージアムの回数」を指標としました。目標については、H21-23の3か年の平均(97回)を基準としています。	97 回	%	成果の状況 評価理由
	(最終目標と目標年度)H24~28年度累積:485回 [実績H24:90回]			%

活動計画	どうやって目的を達成するか	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	・環境人材を育成し、地域の環境リーダーとして活動してもらつべく、月に1回の学習会を行い、知識面でのレベルアップを図ります。環境に関する知見を深めるため、講師による話を適宜行います。 ・サポーター同士で工作等の技術を教えあったり、公害についてのツアーや工場案内など新しいアクティビティを広めたりすることで、レベルアップを図ります。また、募集方法を工夫し、多様な世代を取り組むことで、活性化を図ります。	環境学習サポーター月例学習会参加者数		360 人	%	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	出前講演を利用するなど、本市の施策等様々な分野について、サポーター学習会及び各サポーターの向学のための自主的な学習の場として機能しており、今後の活動にさらなる拡がりを持たせているため、その参加人数を指標としています。目標値は月平均30名の参加を見込んだものです。	環境学習サポーター館内活動延べ人数		2,200 人	%	
	館内で、様々なエコ工作や環境実験などのアクティビティを通じて、来館者へ環境問題にかかる「気づき」を与える活動への参加者数で、人材活用を表す指標です。目標値は、一日平均7~8人の参加を見込んだものです。					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点
-----------	---

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
I - 3 - (3) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
課長	0.15 人
係長	0.30 人
職員	0.25 人

事業概要					
事業名	環境人財育成事業				
	「環境首都検定」は、世界の環境首都を目指す北九州市の取組や魅力を再発見し、実践的な環境行動につなげるきっかけづくりを行うものです。ジュニア編(主に小学生対象)は25問、一般編・上級編は50問あり、70点以上を合格としています。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	22,622 千円	千円		6,600 千円	

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	幅広いPR活動により受検者数は順調に伸びていますが、小学校受検が行われたのは、市内131校の小学校のうち10校でした。今後、より多くの受検者数を確保するためには、小学校受検をもっと広めていく必要があります。
見直し内容	過去6年間の実績を経て事業として安定してきましたが、今後より高い目標達成のためには、安定した受検者数を確保する必要があります。そのためには、検定が環境教育のツールとして確立できるように、教育委員会と連携し、校長会、教職員研修、総合的な学習の時間を活用してのゲストティーチャーなどの場でPRに努め、小学校受検をさらに広めていきます。	

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	市民	検定の実施により、市民の環境についての学習機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。市民をはじめ、人々が北九州市の環境について精通するようにします。			
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州市環境首都検定の受検者数(単年度)		4,000 人	%	
	北九州市環境首都検定の受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指します。 単年度受検者数における達成目標[目標]H25年度:3,000人(H24:2,000人) [実績(達成率)]2,024人(101.2%) (最終目標と目標年度)[目標]H20~H25年度累積:9,000人[実績(達成率)]H20~H24年度累積:6,249人(69%) H28年度 5,500人			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	・企業や団体に対して、メールやチラシなどで広報を行い、イベントでもPRを行います。前回受検者や大学・教育委員会を通じた受検呼びかけなど、効果的なPRを実施します。 ・応援団制度により協力企業・団体をPRしたり、表彰制度により団体高得点者を表彰したりすることによって、団体受検者数を確保します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	受検啓発の実施		5 日	%	
	市民カレッジでは「環境首都検定合格応援講座」を実施し、講義形式で検定対策を行います。ひびきエコフェスタやエコライフステージなどのイベントでは、ミニ検定やチラシの配布などにより、検定のPR活動を行います。				
	団体受検増加への取り組み		90 団体	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
I - 3 - (3) - ③	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他

事業概要					
事業名	ESD活動支援事業				
	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	人件費	目金の金額
		16,219 千円			13,950 千円
				課長 0.30 人 係長 0.60 人 職員 0.60 人	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	ESDの理解を深め、あらゆる世代におけるESD活動の普及を図るため、 ・地域等で活動をリードする人材育成の強化と育成人材を核とする活動普及の手法の見直し ・「ESDの10年」の最終年会合(平成26年11月)における国内外のRCE(ESD活動の推進拠点)との相互交流と活動発信 ・最終年会合の成果をふまえた、以降の活動方針の策定 などに取組みます。
----	-------------------	-------	--

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	【Do】実施 → 【Check】評価	
	市民	「持続可能な社会づくり」を担う人財を育むため、世界共通の課題である持続可能性の視点をもちながら、身近な地域等のさまざまな課題に取り組むESD活動の全市的な普及拡大を目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民のESD活動の認識の向上と活動の普及		認識の向上と活動の普及	%	
	ESDとは、あらゆる人々が地域等の様々な課題とそのつながりに気付き、地域で既に実践している活動等に、持続可能性という視点を加えて、暮らしや社会のあり方を変えていくための学びあいの場、人づくりの場のことです。本市が目指す環境未来都市及び世界の環境首都を実現するためには、このESDの視点が不可欠です。一方で、ESD活動は多種多様にわたっていることから、活動数を把握し、数値で表すことは困難です。 (最終目標と目標年度)		20.0 %	%	
	アンケート調査におけるESD認知度			%	
	活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDについての認知度を指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)(20% H26年度)				

【Check】評価(分析)

活動計画	2014年に、日本で開催する「ESDの10年・最終年会合」に向けて、RCE地域のひとつとして、活動を一層活性化させるため、これまでの取組みに加え、 ○地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成と実践事例の創出・発信 ○国際RCEネットワーク強化を目指した最終年会合への参加とサイドイベントの開催を通じたさらなる市民への啓発 ○最終年会合の成果としてまとめられる今後の方向性や国の動き、本市の活動状況をふまえた新たな活動計画の策定 ○ユネスコスクールや、市内10大学が連携した「まなびとESDステーション」との協働 などをを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	活動団体登録数		78 団体	%	
	本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。				%

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保
施策番号	
II - 3 - (4) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	環境国際協力推進事業				
事業概要	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施します。また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施します。更には国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指すものです。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	3,000 千円	千円			課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.60 人
(人件費備考)					

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 国際協力事業の実施の目標3件に対して4件を実施しました。今後は国際機関等と密に連携し、より効果的な事業実施を目指します。	見直し内容 引き続き、より効果的の高い事業実施を目指します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 本市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 国、国際機関等の補助事業を活用しながら、環境国際協力の実施を通じた地球環境保全、地球規模での持続可能な社会実現、北九州地域の活性化に資することにより、世界の環境首都の実現を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	戦略的国際環境協力事業の件数(単年度)	-	1 件			
	本市が有する都市間ネットワークを活用した戦略的な環境分野に関するプロジェクトを実施し、国際機関等と連携を密にして、協力対象国や都市の「緑の成長」に資する環境国際協力を目指します。 (最終目標と目標年度)平成28年度までに年間事業数6件を目指します。				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力推進事業を活用し、廃棄物分野や環境教育分野において事業を展開していきます。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	マレーシア国廃棄物管理総合マネージメントプログラムの実施	-	-			
	マレーシア国固型廃棄物公社が目標として掲げている「2015年末までに最終処分場への廃棄物搬入量を40%削減する」を達成するため、政策立案、人材育成等の国際協力を実施する。				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保
施策番号	
II - 3 - (4) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	()
	()
	(人件費備考)

事業概要					
事業名	アジアの環境人材育成拠点形成事業				
事業概要	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、人材育成に向けてJICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していくものです。 本市の環境国際協力の原点である環境人材育成は、「世界の環境首都」を目指す本市の取組の一貫であり、海外からの研修員を受け入れることにより、世界的規模で進んでいる環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋がるものです。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		2,218 千円	千円		目安の金額
					課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	研修の受講者数は当初の目標(420人)を大幅に上回る900人を達成しました。引き続き研修の充実化を図るとともに、国内外での研修誘致に努めます。	見直し内容 国内外への職員派遣の際に、研修誘致のための活動を併せて実施することにより、積極的な研修誘致活動を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 本市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) アジア地域の行政官を対象に研修を実施することにより、現地での環境改善において中心的な役割を果たす人材を育成するとともに、本市職員・関係機関職員の能力開発を行うことで、アジアの環境人材育成拠点を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数 アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、本市において環境人材育成を行います。あわせて、海外において指導できるよう、本市の環境人材を育成します。 (最終目標と目標年度)H24~H28年度 2,200人受入	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			450 人	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成24年度から平成28年度までの5年間に、2,200人の研修員を受け入れるため、国内外での研修誘致活動を行います。	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 国内外での北九州市への研修誘致 市職員を国内外に派遣し、公害を克服した本市の技術、ノウハウや環境政策のPR、研修誘致を行います。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
活動指標				-	%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	業務課
課長名	檜木野
施策番号	
Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	まち美化等啓発事業				
	北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例(まち美化条例)に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、春の「『クリーン北九州』まち美化キャンペーン」、秋の「市民いっせいまち美化の日」などのまち美化事業を実施し、市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進します。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	2,896 千円	千円		課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人	3,075 千円

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	成果指標は、それぞれ122,192人(達成率97.7%)、58%(達成率96.7%)となり、ほぼ目標どおりの成果を得ることができています。経済性、効率性の観点から、市民、団体等への広報や清掃申込みは依頼文・チラシの配布等について、より一層のコスト削減が可能と思われます。	見直し内容
		インターネットでの広報や清掃申請を利用しやすく、依頼文・チラシについても効率的な配布を行うことで、大幅縮小の予算でもより多くの方々に清掃に参加していただけるよう取り組んでいきます。	

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民、企業、ボランティア団体等	ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、清掃活動等のまち美化事業を実施することで、まち美化に対する意識の高揚・定着を図っていきます。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	まち美化ボランティア清掃参加者数(単年度)	人	125,000 人	人		
	まち美化意識の高揚を図るため、「『クリーン北九州』まち美化キャンペーン」(春)、「市民いっせいまち美化の日」(秋)を設定し、市内でのまち美化清掃や啓発行事を行い、参加者の増加に努めます。 (最終目標と目標年度) 125,000人(H26年度)				%	
	アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合 市民のまち美化意識の定着を図り、アンケート調査における地域でのまち美化清掃が「常に実行」及び「時々実行」の回答の割合が増えるように努めます。 (最終目標と目標年度) 60%(H26年度)	%	60 %	%		

活動計画				活動の状況		
活動計画	どうやって目的を達成するか	市民・団体がきれいな環境づくり・モラルマナーの向上に関心を高めることを目的に、まち美化清掃の参加を北九州市衛生総連合会と共同で呼びかけ、清掃参加者数の増加に努めます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	まち美化キャンペーン(春)のボランティア団体への呼びかけ数	団体	170 団体	団体		
	「クリーン北九州」まち美化キャンペーン(春)において、キャンペーン期間(5/30~6/30)にボランティア清掃を呼びかけている登録団体数。				%	
	市民いっせいまち美化の日(秋)の団体への呼びかけ数	団体	2,720 団体	枚		
	市民いっせいまち美化の日(秋)において、期間中(9、10月)のボランティア清掃を呼びかけている団体数。			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本
施策番号	
IV - 1 - (1) - ④	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	新規環境産業創出事業(北九州エコプレミアム産業創造事業)				
	市内で生産されている環境配慮型製品や環境負荷低減に寄与するサービスを「北九州エコプレミアム」として選定し、広くPRを行うことにより、販売促進を支援します。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	3,652 千円	千円			5,825 千円
				課長 0.05 人	
				係長 0.30 人	
				職員 0.30 人	

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	H25年度は新たに10件を選定しましたが、既選定製品のうち9件を生産中止等で削除しました。しかしながら、いままでに181件を選定し、目標に向けて順調に推移しています。今後も、北九州エコプレミアムの知名度向上と選定企業の営業活動促進のためPR活動を行います。	見直し内容	引き続き、環境見本市「エコテック」等への出展のほか、エコタウンセンターや消費生活センターでの常設展示、環境産業推進会議でのチラシ配布等、新たな経費を使うことなく効果的なPR活動を行います。また、産業経済局等と相互連携を図り、販売促進につながるようなPR策の検討を行います。
----	-------------------	--	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標	
	市内で製造される製品や、市内で提供されるサービス	環境への負荷が低いことを新しい付加価値として捉えた製品や技術、産業活動を「エコプレミアム」と定義し、北九州発のエコプレミアムを選定しています。選定された製品・サービスは北九州がPRのバックアップを行い、販売促進につながることを目的としています。		環境への負荷が低いことを新しい付加価値として捉えた製品や技術、産業活動を「エコプレミアム」と定義し、北九州発のエコプレミアムを選定しています。選定された製品・サービスは北九州がPRのバックアップを行い、販売促進につながることを目的としています。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	
	エコプレミアム選定件数(単年度)		10 件	%	
	選定された製品・サービスが、この事業によりどれだけ販売促進につながったかを具体的な数値で表すことは情報が得られないため、選定件数を指標とします。				
	(最終目標と目標年度)累計200件選定(H27年度)				
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	・200件選定(平成27年度目標)に向けて市内企業の掘り起こしを行っていきます。 ・紹介カタログを作成するとともに、西日本総合展示場で開催する環境見本市「エコテック」に出展しPRします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	
	北九州エコプレミアムのPR活動		設定なし	%	
	200件選定(平成27年度)を目標として、市内企業の掘り起こしを行います。また、環境見本市「エコテック」への出展、エコタウンセンターでの常設展示や環境産業推進会議でのチラシ配布等、様々なPR活動を行います。				
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	柴田
施策番号	
V - 1 - (4) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
課長	1.00 人
係長	1.00 人
職員	2.00 人

事業概要					
事業名	北九州スマートコミュニティ創造事業				
	事業概要 「北九州スマートコミュニティ創造事業」は、産学官民の英知と志を結集し、基幹システムとの協調の下、地域エネルギーマネジメントのあるべき姿を具体化し、「ライフスタイル」「ビジネススタイル」、さらには、市のまちづくりを変革することで、低炭素社会のあるべき社会構造を構築するものです。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	102,357 千円	千円			36,500 千円

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 本事業の成果指標は、CO2削減量と関連製品の市内企業売り上げや雇用を挙げています。これらの指標については、速報値などから達成できる見込みが立っています。一方で、実証最終年度であるため今度の成果の展開を新たな課題として挙げています。	見直し内容	これまでどおりCO2の削減や地域経済の浮揚を目指して、実証事業の推進を行います。26年度は実証事業の最終年度ということもあり、ビジネスモデルの検討をまとめます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	八幡東区東田地区を実証地域として社会インフラを含むコミュニティ	スマートグリッドを核として、ライフスタイル、ビジネススタイルなどの変革を目指します。こうした取組みを通じて、国内外に先駆けCO2の50%削減と豊かな市民生活が両立した社会を実現するとともに、北九州発のグリーンイノベーションを起こし、国内外にビジネスベースで技術移転することで、地域経済の成長につなげます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	地域社会が参加するエネルギーコミュニティの実現				
	平成26年度に市内一般街区と比較して、約50%のCO2削減を目指します。 (最終目標と目標年度) 26年度末50%CO2削減		50%削減	%	
	地域経済の浮揚 関連製品市内企業売上や雇用の創出を目指します。 (最終目標と目標年度)平成27年度末 関連製品市内企業売上約70億円、雇用70人の創出		27年度末 売上70億円 雇用70人	%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 本事業は平成22年度から開始しています。平成26年度は事業の最終年度であり、地域エネルギーマネジメントシステムと各需要家のエネルギーマネジメントシステムを連携させた実証を完了する予定です。電力の需給状況に応じて電気料金を変動させるダイナミックプライシングやインセンティブプログラムを組み合わせ、実運用に近い実証を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	プロジェクト着手数				
	平成24年度は、地域エネルギーマネジメントシステム(GEMS)、ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)など、28の個別プロジェクトの着手数を指標と設定しました。(平成25年度までに、11事業が完了済)	23 事業	17 事業	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	平石
施策番号	
V - 1 - (4) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
課長	0.05 人
係長	0.10 人
職員	0.30 人
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	新エネルギー等設備導入支援事業				
事業概要	本市は北九州市環境モデル都市行動計画(北九州グリーンフロンティアプラン)を平成21年3月に策定し、低炭素社会づくりを目指しています。 本事業は、家庭部門での地球温暖化対策を推進するため、「家庭用燃料電池(エネファーム)」を設置する市民に対し、市が設備費用の一部を補助することで、当該設備の導入を促進するとともに、地域産業振興を推進することを目的とします。また、家庭での地球温暖化防止に対する市民の意識向上を図ります。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	9,000 千円	千円			3,825 千円

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度は、太陽光発電システム、屋上緑化、エネファームの設置に対する補助金交付を実施しました。市域全体で太陽光発電システムの導入が進んでおり、目標値を大きく上回る結果となりました。平成25年度に事業内容を見直し、太陽光発電システムと屋上緑化に対する補助金を廃止し、エネファーム設置に対する補助事業のみを進めています。エネファームについては、補助金交付事業を広く周知するため、PRや広報の仕方を検討する必要がありますと考えます。	見直し内容	平成24年度から実施している家庭用燃料電池(エネファーム)の補助金を引き続き実施します。補助制度を活用して、市内でのエネファーム設置を推進するため、補助制度についてHPで周知するだけでなく、エネファームの販売等を行う市内事業者に対して事前説明を行うなど、広く周知を行っていきます。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	新エネルギー等設備設置の補助事業を活用し、市内家庭部門の地球温暖化防止を進めます。市民への意識啓発を行い、市民一人一人が地球温暖化防止にむけて行動するような状態を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	家庭での地球温暖化防止のための市民意識向上					
	補助金交付者を対象としたエネファームの稼働状況報告により、市民一人一人のCO2排出量削減を意識した行動を促すとともに意識調査を実施します。	-	-			
	(最終目標と目標年度)			%		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	家庭用燃料電池(エネファーム)の導入に対する補助制度を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	家庭用燃料電池(エネファーム)導入件数(市が補助を行ったもの)					
	地球温暖化対策を推進していくために、温室効果ガス削減につながる家庭用燃料電池の導入を補助金交付により推進し、その導入件数を把握します。※目標値は、前年度実績に補助予定分の導入量を加えたものです。		150 件			%
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	平石
施策番号	
V - 1 - (4) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(事業者が主体で取組む)	

事業概要					
事業名	地域エネルギー政策推進事業				
事業概要	東日本大震災を契機とした電力不足・電気料金値上げの問題を受け、市民生活・産業活動といった地域を支える観点から、低炭素・安定・安価なエネルギーを地域に供給することを目指し、本市の新成長戦略の主要プロジェクトとして「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」に取り組んでいます。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目金の金額	課長 0.50 人
	26,200 千円	千円		30,250 千円	係長 1.40 人 職員 1.40 人
(人件費備考)					

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 地域に低炭素・安定・安価なエネルギーを地域に供給することや、北九州スマートコミュニティ創造事業のノウハウを活かし、地域でエネルギーを賢く使う仕組みを構築することです。	見直し内容	H24,H25の検討結果を踏まえ、H26以降は、「火力発電・洋上風力発電の立地」や「地域エネルギー会社の設立」など、事業実現に向けた検討・準備を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市内事業者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市民生活・産業活動といった地域を支える観点から、低炭素・安定・安価なエネルギーを地域(市内事業者)に供給することを目指しています。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	地域エネルギー会社の設立	-	-		
	当事業の中核である「地域エネルギー会社」を設立し、市内の各種発電から電気を購入・市内事業者へ安定・安価な電気を供給します。 (最終目標と目標年度)平成27年度設立	-	-	%	
	火力発電・洋上風力発電の立地 低炭素・安定・安価な電気を地域エネルギー会社へ供給するため、火力発電や洋上風力発電を立地します。 (最終目標と目標年度)火力発電・風力発電:平成28年度から随時	-	-	%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 当事業の実現に向けて、市内事業者と意見交換を通じて、事業の周知や事業者情報の収集を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市内企業との協議		20 社		
	市内事業者と協議を行い、事業の周知や市内事業者の情報収集を行います。			%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
VI - 1 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	市民環境力支援事業				
事業概要	(1)北九州エコライフステージ事業・・・各地域が主体となって実施する「地域・テーマ別事業」、環境情報の交流の場・発信の場づくりを推進するポータルサイトの運営、その取組みの集大成として、市民・企業・NPO・行政等が集結し、日頃の環境活動やエコライフを発表・提案する環境イベントの開催等を行います。 (2)環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業・・・市民団体、NPO、事業者等が行う積極的な取組みを支援し、環境モデル都市を推進する活動の活性化を目指します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		24,102 千円	千円		目金の金額
					課長 0.15 人 係長 0.25 人 職員 0.80 人
					10,225 千円

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 ・環境未来都市を目指す本市において、エコライフステージのメインイベントや年間の活動を通じ、さらなる市民・企業・行政等の交流によるネットワークの拡大と新たな取組みの創出・展開が求められます。 ・平成19年度から開始した「菜の花プロジェクト」は、菜の花を通して資源循環を理解する、市民が気軽に取組むことができる活動である一方で、活動への補助申請や菜種の回収件数が伸び悩んでおり、一定の団体による取組みに限られている傾向にあります。	見直し内容	・活動団体等の相互交流や取組みの発信を進め、活動参加者数の拡大を図るため、専用ポータルサイトにおける情報発信力や活動のPR支援を強化します。 ・「菜の花プロジェクト推進事業」のあり方を見直し、活動する市民にとって活用しやすい支援制度に改善します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 一人ひとりが楽しみながら環境活動に参加する仕組みをはじめ、実践や交流を重ねるための情報交流の場・発信の場づくりに取組み、さらなる取組を産み出すことにより、「市民環境力」の持続的な発展を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	エコライフステージ参加者数(単年度) 参加者数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」の参加者数と、シンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案するイベント)の来場者数の合計数です。市民の環境活動への参加が市民の環境力につながると考え、設定しました。 (最終目標と目標年度)		74 万人以上	%	
	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大 「市民環境力」を強化するための情報交流の場・発信の場づくりを推進します。具体的には、環境に配慮したイベント運営の実施、環境をテーマとしたポータルサイトの運営・効果的かつタイムリーな情報発信を行います。 (最終目標と目標年度)		市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大を目指します。	%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・環境情報・イベントをはじめ、活動団体等の取組み等の効果的かつ積極的な受発信などを通じ、地域や民間団体等が環境に対する意識を高めることにより、自ら企画・実施する環境活動の増加を目指します。 ・菜の花を通じた環境学習に関する取組みを、「環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業」に統合し、制度の簡素化を図るとともに、モデル都市の実現を促進する環境活動として一体的に推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	エコライフステージ行事数 行事数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」及びシンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案する環境イベント)の行事合計数です。地域で行われている環境活動の行事数増加が市民の環境力につながると考え、設定しました。		200 行事	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田
施策番号	
VI - 1 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他

事業概要					
事業名	北九州市民環境パスポート事業				
事業概要	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するため、買物の際に参加店でレジ袋を断るとポイントシールがもらえ、20ポイント貯まると参加店で50円の割引券として利用できる「カンパスシール事業」を実施します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		10,200 千円	千円		3,575 千円
					課長 0.05 人 係長 0.15 人 職員 0.20 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成26年度末で終了予定としているカンパスシール事業について、お断り率等から一定の成果をあげていると考えられますが、事業終了後どのような形でこの成果を継続、向上できるか検討します。	見直し内容 カンパスシール事業の今後について、有識者や関係団体で構成する「北九州市民環境パスポート運営協議会」において、多数の市民、事業者へレジ袋削減に取り組んでいただけるような制度を検討します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	市民	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供することにより、家庭ごみの減量化の推進を図ります。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	カンパスシール等によるレジ袋お断り率(単年度)					
	レジ袋のリデュースによるCO2削減効果に結びつくとともに、市民の身近な環境活動への参加状況を表す指標とします。 (最終目標と目標年度)各店舗の独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含んだお断り率としてH26年度に27%			27.0 %		
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	継続して積極的な広報活動を行い、市民の環境活動への参加を働きかけることにより、平成26年度までに各店舗で独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含めたお断り率として27%を目指して取り組んでいきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	広報活動の実施				
	市民の環境活動への参加及び事業終了の周知を図るため、積極的な広報活動を行います。		目標設定はありません		
					%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	環境局
						担当課	循環社会推進課
						課長名	敷田
事業名	古紙リサイクル推進事業					施策番号	
						VI - 1 - (1) - ②	
事業概要	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や、古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動を支援します。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (奨励金)
							コスト 事業費

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 家庭ごみの中に雑がみなどの古紙が約16%も含まれている現状を踏まえ、これらの分別回収を促進するため、周知・啓発の強化を行う必要があります。古紙回収の促進により家庭ごみの減量化を目指すとともに、回収活動を通じた奨励金の支給により地域活動の活性化を図ります。	見直し内容	古紙回収の促進を行うとともに、分別が判りにくい雑がみの分別回収について周知・啓発を行うことにより、回収量の増加を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 古紙回収量	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 古紙の集団資源回収の支援を通じ、家庭ごみの約16%を占める古紙の減量化・資源化を図るとともに、奨励金の支給による地域活動の活性化を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 古紙の年間回収量の増加	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	平成23年度に策定した循環型社会形成推進基本計画に掲げたりサイクル率35%以上を目指すため、平成32年度までに1人あたりの古紙回収量の10%増加(対平成21年比)を目指します。 (最終目標と目標年度) 1人あたり10%回収量の増加(H32年度)		30,500 トン	%	
	古紙回収に取り組むまちづくり協議会数 未回収地域の解消を図るため、古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 全136団体の参加(目標年度の設定なし)		136 団体	%	

活動計画	・市制50周年記念事業として行った市民いっせい雑がみ回収グランプリの実施を踏まえ、引き続き雑がみの分別回収および古紙回収全体の周知・啓発を行います。 ・未回収地域の解消を図り古紙回収量の増加を目指すため、未回収地域における回収等を行っているまちづくり協議会に対し奨励金を支給する「地域調整奨励金制度」に未登録であるまちづくり協議会に対して、積極的に登録を呼びかけます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 広報活動の実施	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市HPやかえるプレスへの掲載、出前講演等で周知・啓発を行い、更なる協力を呼びかけます。		単年度目標設定なし	%	
	未登録団体への個別訪問件数 地域調整奨励金制度に未登録であるまちづくり協議会に対して、個別に訪問説明し、登録を促します。		6 団体 (訪問件数)	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
VI - 1 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
課長	0.15人
係長	0.25人
職員	0.80人

事業概要				
事業名	市民環境力支援事業			
事業概要	(1)北九州エコライフステージ事業...各地域が主体となって実施する「地域・テーマ別事業」、環境情報の交流の場・発信の場づくりを推進するポータルサイトの運営、その取組みの集大成として、市民・企業・NPO・行政等が集結し、日頃の環境活動やエコライフを発表・提案する環境イベントの開催等を行います。 (2)環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業...市民団体、NPO、事業者等が行う積極的な取組みを支援し、環境モデル都市を推進する活動の活発化を目指します。			
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	目金の金額	(事業費備考)
	24,102 千円	千円	10,225 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 ・環境未来都市を目指す本市において、エコライフステージのメインイベントや年間の活動を通じ、さらなる市民・企業・行政等の交流によるネットワークの拡大と新たな取組みの創出・展開が求められます。 ・平成19年度から開始した「菜の花プロジェクト」は、菜の花を通じて資源循環を理解する、市民が気軽に取組むことができる活動である一方で、活動への補助申請や菜種の回収件数が伸び悩んでおり、一定の団体による取組みに限られている傾向にあります。	見直し内容	・活動団体等の相互交流や取組みの発信を進め、活動参加者数の拡大を図るため、専用ポータルサイトにおける情報発信力や活動のPR支援を強化します。 ・「菜の花プロジェクト推進事業」のあり方を見直し、活動する市民にとって活用しやすい支援制度に改善します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 一人ひとりが楽しみながら環境活動に参加する仕組みをはじめ、実践や交流を重ねるための情報交流の場・発信の場づくりに取組み、さらなる取組を産み出すことにより、「市民環境力」の持続的な発展を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) エコライフステージ参加者数(単年度) 参加者数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」の参加者数と、シンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案するイベント)の来場者数の合計数です。市民の環境活動への参加が市民の環境力につながると考え、設定しました。 (最終目標と目標年度)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大 「市民環境力」を強化するための情報交流の場・発信の場づくりを推進します。具体的には、環境に配慮したイベント運営の実施、環境をテーマとしたポータルサイトの運営・効果的かつタイムリーな情報発信を行います。 (最終目標と目標年度)		74 万人以上	%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・環境情報・イベントをはじめ、活動団体等の取組み等の効果的かつ積極的な受発信などを通じ、地域や民間団体等が環境に対する意識を高めることにより、自ら企画・実施する環境活動の増加を目指します。 ・菜の花を通じた環境学習に関する取組みを、「環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業」に統合し、制度の簡素化を図るとともに、モデル都市の実現を促進する環境活動として一体的に推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) エコライフステージ行事数 行事数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」及びシンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案する環境イベント)の行事合計数です。地域で行われている環境活動の行事数増加が市民の環境力につながると考え、設定しました。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			200 行事	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
VI - 1 - (2) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他

事業概要					
事業名	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務				
事業概要	環境ミュージアム及びエコハウスは、北九州市全体の環境力を高めるための重要な施設です。地球温暖化や廃棄物問題などの環境問題の原因の多くは、市民一人ひとりの日常生活の積み重ねにあります。環境にやさしい持続的な社会を実現するためには、学校、企業、市民、市民団体、行政それぞれが主体となり、相互に連携して取り組む必要があります。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		75,734 千円	千円		目金の金額
					課長 0.15 人 係長 0.15 人 職員 0.30 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	展示リニューアルやスタッフ独自の企画展、イベント等により、来館者数は大きく伸びていますが、大人単体での来館者はまだ少なく、増加の要素をもっていると考えます。	見直し内容 施設の整備や展示物等の修繕的確に行い、スタッフの力を十分に発揮できる環境をつくり、来館者数増加を図りたいと思います。さらに、大人の市民が来館したくなるように、環境学習以外の観点もち、大人向けプログラムの充実を図りたいと考えます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象 (誰を、何を)	目指す状態 (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民及び国内外の人々	市民や国内外の人々が、環境ミュージアムで開かれるイベントや、出張環境ミュージアムに参加し、「環境」について、見て・感じて・学べ、交流・協働できるようになることを目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	環境ミュージアム利用者数 (単年度)		130,000 人		
	環境教育・学習の中心的な役割を果たし、市内のみならず、国内外、さらに子どもから社会人、お年寄りまでの幅広い年齢層が集まる場であるため、指標としました。開館以来1度だけ突破したことがあるハードルの13万人を目標に掲げました。			%	
	(最終目標と目標年度) H26年度 130,000人				
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	スタッフのスキルや展示の整備などにより、毎年一定の来館者数が確保されています。イベントや出張環境ミュージアムを行うことで更なる集客を図り、市民環境力の向上を目指します。大人向けプログラムの充実を図り、団体や家族だけでなく、大人単体の入館者数向上も目指します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	イベントや企画展の開催件数		100 回		
	より多くの市民に来館していただき、市民・スタッフ・サポーターが対話を通して交流しながら情報提供を行うためには、より多くの企画展やイベントを開催することが大切です。目標値である100回は、年間の土日の日数です。			%	
	スタッフ・環境学習サポーターの出張環境ミュージアム回数		100 回		
	学校や市民センター、市の主催するイベント等、様々な場所へも出張し、数々のエコ工作や環境実験などのアクティビティを参加者とともに行うことで、市民に対し、学習機会を提供できると考えました。目標値である100回は、年間の土日の日数です。			%	

【Check】評価 (分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
VI - 1 - (2) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	ESD活動支援事業				
事業概要	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		16,219 千円	千円		目金の金額
					課長 0.30 人 係長 0.60 人 職員 0.60 人
					(人件費備考)

【Action】改善	
課題	<p>H24年度の評価結果を受けての課題</p> <p>ESDの概念が広範で抽象的であることなどから、アンケート調査におけるESD認知度が低い状況にあることが課題です。幅広い市民におけるESDの理解を広め、活動を産み出す取組みが必要です。</p>
見直し内容	<p>ESDの理解を深め、あらゆる世代におけるESD活動の普及を図るため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域等で活動をリードする人材育成の強化と育成人材を核とする活動普及の手法の見直し ・「ESDの10年」の最終年会合(平成26年11月)における国内外のRCE(ESD活動の推進拠点)との相互交流と活動発信 ・最終年会合の成果をふまえた、以降の活動方針の策定 などに取組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	<p>対象(誰を、何を)</p> <p>市民</p>	<p>目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)</p> <p>「持続可能な社会づくり」を担う人財を育むため、世界共通の課題である持続可能性の視点をもちながら、身近な地域等のさまざまな課題に取り組むESD活動の全市的な普及と拡大を目指します。</p>	成果の状況	<p>代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック</p>	
代表的な成果指標	<p>指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</p> <p>市民のESD活動の認識の向上と活動の普及</p> <p>ESDとは、あらゆる人々が地域等の様々な課題とそのつながりに気づき、地域で既に行っている活動等に、持続可能性という視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていくための学びあいの場、人づくりの場のことです。本市が目指す環境未来都市及び世界の環境首都を実現するためには、このESDの視点が不可欠です。一方で、ESD活動は多種多様にわたっていることから、活動数を把握し、数値で表すことは困難です。</p> <p>(最終目標と目標年度)</p> <p>アンケート調査におけるESD認知度</p> <p>活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDについての認知度を指標として設定しました。</p> <p>(最終目標と目標年度)(20% H26年度)</p>	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			認識の向上と活動の普及	%	
			20.0 %	%	

活動計画	<p>2014年に、日本で開催する「ESDの10年・最終年会合」に向けて、RCE地域の一つとして、活動を一層活性化させるため、これまでの取組みに加え、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成と実践事例の創出・発信 ○国際RCEネットワーク強化を目指した最終年会合への参加とサイドイベントの開催を通じたさらなる市民への啓発 ○最終年会合の成果としてまとめられる今後の方向性や国の動き、本市の活動状況をふまえた新たな活動計画の策定 ○ユネスコスクールや、市内10大学が連携した「まなびとESDステーション」との協働 などを行います。 	活動の状況	<p>活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック</p>		
活動指標	<p>指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</p> <p>活動団体登録数</p> <p>本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。</p>	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			78 団体	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
VI - 1 - (2) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	
課長	0.15 人
係長	0.30 人
職員	0.25 人

事業概要				
事業名	環境人財育成事業			
事業概要	「環境首都検定」は、世界の環境首都を目指す北九州市の取組や魅力を再発見し、実践的な環境行動につなげるきっかけづくりを行うものです。ジュニア編(主に小学生対象)は25問、一般編・上級編は50問あり、70点以上を合格としています。			
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
	22,622 千円	千円		6,600 千円
				目金の金額

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	幅広いPR活動により受検者数は順調に伸びていますが、小学校受検が行われたのは、市内131校の小学校のうち10校でした。今後、より多くの受検者数を確保するためには、小学校受検をもっと広めていく必要があります。
見直し内容	過去6年間の実績を経て事業として安定してきましたが、今後より高い目標達成のためには、安定した受検者数を確保する必要があります。そのためには、検定が環境教育のツールとして確立できるように、教育委員会と連携し、校長会、教職員研修、総合的な学習の時間を活用してのゲストティーチャーなどの場でPRに努め、小学校受検をさらに広めていきます。	

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	検定の実施により、市民の環境についての学習機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。市民をはじめ、人々が北九州市の環境について精通するようにします。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	北九州市環境首都検定の受検者数(単年度)		4,000 人		
	北九州市環境首都検定の受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指します。単年度受検者数における達成目標[目標]H25年度: 3,000人(H24: 2,000人) [実績(達成率)]2,024人(101.2%) (最終目標と目標年度)[目標]H20~H25年度累積: 9,000人[実績(達成率)]H20~H24年度累積: 6,249人(69%) H28年度 5,500人			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	・企業や団体に対して、メールやチラシなどで広報を行い、イベントでもPRを行います。前回受検者や大学・教育委員会を通じた受検呼びかけなど、効果的なPRを実施します。 ・応援団制度により協力企業・団体をPRしたり、表彰制度により団体高得点者を表彰したりすることによって、団体受検者数を確保します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	受検啓発の実施		5 回		
	市民カレッジでは「環境首都検定合格応援講座」を実施し、講義形式で検定対策を行います。ひびきエコフェスタやエコライフステージなどのイベントでは、ミニ検定やチラシの配布などにより、検定のPR活動を行います。			%	
	団体受検増加への取り組み		90 団体		
	学校や企業、市民団体等、グループの受検を推奨することで、受検者増を促進します。			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保
施策番号	
VI - 1 - (2) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	OECD北九州レポートを活用したグリーン成長推進事業				
事業概要	OECDから平成25年10月18日に発表された「北九州グリーンシティレポート(日本語版)」を活用し、レポートに提言された事項を政策に反映させたり、国内外へのアピールを進め、グリーン成長及び世界の環境首都の実現につなげます。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		6,000 千円	千円		目安の金額
					課長 0.50 人 係長 0.50 人 職員 1.00 人
(人件費備考)					

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートに記載された評価、提言を今後の政策に反映するには、市民にレポートについて内容を理解してもらうことが必要となります。 ・今後の一層の国際協力の推進や、世界のグリーン成長に寄与する取組が求められています。 		

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	市民、アジア地域の都市	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が本市のグリーン成長について理解を深めることで、「市民環境力」を一層高め、本市の更なるグリーン成長に寄与します。 ・アジアをはじめとした都市が、本市の協力のもとグリーン成長につながる取組を実施したり、本市の取組を参考にすることで、グリーン成長を推進します。 				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	「市民環境力」の向上及び今後の政策実行への積極的な関与		市民意見を反映させたパンフレットの作成	%		
	市民が、OECDレポートに記載された評価、提言について理解を深め、市民環境力がさらに高まり、今後の本市の取組に積極的に関与することを目指します。 (最終目標と目標年度)					
	OECD北九州レポートを活用した本市の施策等のPR OECD北九州レポートを活用しながら本市の経験、政策、成果等を重要な国際会議等で国内外に向けて発信し、今後の環境国際協力やビジネス展開へとつなげます。 (最終目標と目標年度)		主要な国際会議への参加		%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州レポートフォローアップ委員会を設置し、市民との意見交換会を実施したり、政策へ反映するための行政会議を開催します。 ・国際会議などの場で、本市の経験や成果を国内及び世界に向けて発信し、今後の環境国際協力やビジネス展開へとつなげます。 		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標
	委員会等の開催		4 回
	北九州レポートの周知と今後のグリーン成長への提言の実行について、市民と対話を進めるための意見交換会及び委員会を開催します。		
			回
			%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要					担当局	環境局	
					担当課	総務課	
					課長名	渡部	
事業名	環境未来都市広報事業					施策番号	
						VI - 1 - (2) - ③	
事業概要	環境未来都市の認知度の向上及び環境広報の強化のため、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報や、イベント等でのPRを継続して行います。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.30 人
		6,250 千円	千円			8,700 千円	係長 0.30 人 職員 0.30 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 市民への浸透は進んできましたが、さらなる周知が必要です。	見直し内容	環境マスコットキャラクターを活用したPR活動を継続します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象 (誰を、何を)	目指す状態 (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	環境マスコットキャラクターを環境広報・PRに活用することによって、「環境未来都市」の認知度の向上を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	アンケート調査における環境未来都市選定の認知度		単年度目標設定なし		
	環境マスコットキャラクターを活用した「環境未来都市」の認知度向上に取り組んでいます。アンケート調査における環境未来都市の認知度を指標に設定し、その向上を図ります。北九州市環境未来都市計画の5年間に実施する取組みの最後となるH28年度に80%以上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%以上 (H28年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	環境マスコットキャラクターの環境関連イベントなどへの出演や、市や市以外の民間企業などが作成する印刷物や関連グッズへのキャラクター使用などを通じて、市民の目に触れる機会を増やします。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	環境マスコットキャラクターイベント参加回数		72 回			
	環境関連のイベントなどキャラクターの出演や環境未来都市の取組みをPRするブースの出展等の参加回数を増やし、取組みの浸透と認知度の向上を図ります。			%		
	環境マスコットキャラクター使用承認申請数		48 回			
市以外の民間企業や市民団体などが環境マスコットキャラクターを使用してもらう回数を増やすことで、市民の目に触れる機会を増やします。		%				

【Check】評価 (分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本
施策番号	
VI - 2 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	中小企業省エネ設備導入促進事業				
事業概要	工場や事業所における一層の省エネルギー対策を推進するため、省エネ設備や新エネ設備を設置する市内の中小企業等に対し、設置費用の一部を補助する事業を実施しています。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		150,000 千円	千円		4,825 千円
					目金の金額 課長 0.05 人 係長 0.20 人 職員 0.30 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	成果指標・活動指標ともに目標を達成しており、事業は大変順調に進んでいます。	見直し内容 平成25年度に過去の実施状況、予算措置等を踏まえ、補助対象事業、要件の見直しや新たに交付回数制限を設けるなど一部制度改正を行い、さらなる低炭素社会づくりを推進しています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市内中小企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 省エネルギー型設備及び新エネルギーを利用した発電設備が普及した状態を目指します。また、市内における投資を促進し、地域産業の活性化を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	省エネルギー効果		600,000 kWh			
	省エネルギー型設備及び新エネルギーを利用した発電設備の導入による省エネルギー効果を成果指標としました。補助事業者の平成25年度と平成27年度の使用電力量から省エネ効果を算出します。 (最終目標と目標年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 省エネルギー型設備(高効率空調、高効率照明、高効率ボイラー、節水型便器等)、新エネルギー(太陽光発電、小型風力発電等)を利用した発電設備を複合的に導入する市内の中小企業等に対し、補助対象経費の3分の1以内、1件あたりの限度額300万円で助成を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	
	補助金交付件数		100 件	
	省エネ設備及び新エネ設備の導入により低炭素社会づくり及び地域産業の活性化を目指します。			%
				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	平石
施策番号	
VI - 2 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	
課長	0.10 人
係長	0.20 人
職員	0.40 人

事業概要				
事業名	北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業			
事業概要	環境モデル都市としての市役所の率先垂範を実践するため、また、省エネ法及び温対法の規制へ対応するため、平成23年度から本事業により市役所の環境・エネルギー対策として、省エネ・節電を推進します。また、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。			
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	
	12,285 千円	千円	人件費	目安の金額
			6,150 千円	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.40 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	市役所の推進はH23から取り組んでおり、運営面での大幅な省エネ・節電は見込めません。市民向け対策も、参加人数は増加しているが、周知が足りていません。	見直し内容 市役所においては、これまでの省エネ・節電の活動の徹底と、省エネ機器への更新を実施します。また、市民向けには、広報・周知に力を入れ、多くの市民の参加を促します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市役所、市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 省エネ・節電を推進するとともに、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	市有施設のエネルギー消費原単位の改善		前年度比 1%減 %			
	省エネ・節電の評価指標として、市有施設の総エネルギー使用量の年1% (前年比)の以上の改善を指標としました。 (最終目標と目標年度)H27年度までに総エネルギー使用量H22年度比5%減					
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	環境モデル都市としての市役所の率先垂範を実践するため、全体会議を開催し、各局における省エネ・節電の全市的な取組みを推進します。また、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	節電推進本部会議開催回数		5 回			
	全庁的な省エネ・節電を推進するため、北九州市節電推進本部を設置し、本部会議を開催します。	回				
	省エネ王コンテスト参加人数					
	市民向けに家庭での省エネ・節電を推進するため、消費電力削減率により選考する省エネ王コンテストを開催します。	915 人	1,000 人			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本
施策番号	
VI - 2 - (2) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	環境未来技術開発助成事業				
	循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向け、市内における先進的かつ実現性の高い環境技術の研究を支援することにより、環境産業の振興を図り、我が国ひいては世界的な環境分野の課題の解決に先導的役割を果たすことを目指します。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	53,818 千円	千円			4,595 千円
			課長	0.03 人	
			係長	0.20 人	
			職員	0.30 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度末時点における事業化数は20件、平成24年度の採択件数も12件と、成果指標・活動指標ともに目標を達成しており、事業は順調に進んでいますが、新成長戦略の推進に向け、さらに取組みを進めていく必要があります。	見直し内容 本事業は引き続き実施するとともに、平成25年度から新たに「次世代資源循環型産業拠点形成推進事業」を立ち上げ、希少金属(レアメタル)・資源のリサイクルや新エネルギー・省エネルギー関連技術における事業化目前の研究開発を支援するため、新たに「上限額:2,000万円、助成期間:1年間、助成率:2/3」という枠組みの「事業化チャレンジ枠」を設けており、さらに事業化の促進を図っています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市内中小企業等	新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証研究等に対して、その研究開発費の一部を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計:事業化チャレンジ枠分を除く)		22 件		
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。 (最終目標と目標年度) 28件(H32年度末)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成26年度も、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図るため、本助成制度を引き続き実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	本助成事業の採択件数(単年度:事業化チャレンジ枠分を除く)		10 件		
	上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。			%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要				担当局	環境局
				担当課	循環社会推進課
事業名 古紙リサイクル推進事業				課長名	敷田
				施策番号 VI - 3 - (1) - ①	
事業概要 一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や、古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動を支援します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (奨励金)	
コスト	事業費	26年度当初予算額 271,775 千円	26年度執行額 千円	人件費	目金の金額 2,750 千円 課長 0.00 人 係長 0.05 人 職員 0.30 人 (人件費備考)

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	家庭ごみの中に雑がみなどの古紙が約16%も含まれている現状を踏まえ、これらの分別回収を促進するため、周知・啓発の強化を行う必要があります。古紙回収の促進により家庭ごみの減量化を目指すとともに、回収活動を通じた奨励金の支給により地域活動の活性化を図ります。	見直し内容	古紙回収の促進を行うとともに、分別が判りにくい雑がみの分別回収について周知・啓発を行うことにより、回収量の増加を図ります。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	古紙回収量	古紙の集団資源回収の支援を通じ、家庭ごみの約16%を占める古紙の減量化・資源化を図るとともに、奨励金の支給による地域活動の活性化を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 古紙の年間回収量の増加 平成23年度に策定した循環型社会形成推進基本計画に掲げたりサイクル率35%以上を目指すため、平成32年度までに1人あたりの古紙回収量の10%増加(対平成21年比)を目指します。 (最終目標と目標年度) 1人あたり10%回収量の増加(H32年度)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	古紙回収に取り組むまちづくり協議会数 未回収地域の解消を図るため、古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 全136団体の参加(目標年度の設定なし)		136 団体	%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	・市制50周年記念事業として行った市民いっせい雑がみ回収グランプリの実施を踏まえ、引き続き雑がみの分別回収および古紙回収全体の周知・啓発を行います。 ・未回収地域の解消を図り古紙回収量の増加を目指すため、未回収地域における回収等を行っているまちづくり協議会に対し奨励金を支給する「地域調整奨励金制度」に未登録であるまちづくり協議会に対して、積極的に登録を呼びかけます。	古紙回収量の増加			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 広報活動の実施 市HPやかえるプレスへの掲載、出前講演等で周知・啓発を行い、更なる協力を呼びかけます。 未登録団体への個別訪問件数 地域調整奨励金制度に未登録であるまちづくり協議会に対して、個別に訪問説明し、登録を促します。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			単年度目標設定なし	%	
			6 団体 (訪問件数)	%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田
施策番号	
VI - 3 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他

事業概要						
事業名	循環型社会を形成するための環づくり支援事業					
事業概要	市民一人ひとりが取り組むことが出来る生ごみの減量化・資源化を目指し、生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」の推進や、生ごみコンポスト化の基礎知識やコンポスト化容器活用方法等を習得する講座の実施等を通じ、循環型社会の形成を図ります。					
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
		5,767 千円	千円			14,825 千円
						課長 0.05 人 係長 0.60 人 職員 1.10 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	家庭ごみの減量化・資源化の促進のため、生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」の促進及び生ごみコンポスト化容器活用の普及促進の取組みが必要です。	見直し内容 各講座での生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」の啓発を行うとともに、生ごみコンポストアドバイザー等の増加を行うことで、より多くの市民への普及促進を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	家庭ごみの約40%を占める生ごみの減量化・資源化の推進を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	生ごみの減量化 北九州市循環型社会形成推進基本計画において、家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対H21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)H32年度に家庭ごみ量における厨芥類(生ごみ)の8%削減(対H21年度比) (H21年度は、86.044トン)単年度の目標ではなく、最終目標に向けた総合的な取組みを行っています。		単年度の目標設定はありません	%	
	3Rの意識醸成 地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します、 (最終目標と目標年度)		3R意識の醸成を図ります	%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	リデュース活動推進事業として、生ごみの減量化を図るため、リデュースクッキング講座を開催します。 また、リサイクル活動推進事業として、生ごみコンポスト化容器活用講座や、地域における生ごみのリサイクル活動を普及させるため、地域生ごみリサイクル講座を実施します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	リデュースクッキング講座 生ごみの発生抑制となる調理方法や生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」の重要性を紹介するリデュースクッキング講座を実施します。		3 回	%	
	生ごみコンポスト化容器活用講座等実施回数 生ごみコンポスト化容器の普及と活用を推進するため、生ごみコンポスト化容器活用講座等を実施します。		85 回	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田
施策番号	
VI - 3 - (1) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
課長	0.20 人
係長	0.25 人
職員	0.50 人

事業概要					
事業名	「北九州市循環型社会形成推進基本計画」推進事業				
事業概要	本市では、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の規定に基づき「北九州市循環型社会形成推進基本計画」(本市の一般廃棄物処理計画)を策定し、本計画に基づきごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っています。本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行います。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	100 千円	千円			8,550 千円

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	家庭系ごみ、事業系ごみともに収集制度見直しの効果が近年高止まりしており、「北九州市循環型社会形成推進基本計画」の目標値達成のため、ごみの減量化・資源化の取組みをさらに進める必要があります。	見直し内容	事業系ごみは今後の社会経済状況によっては増加もあり得ることから、事業系ごみの排出状況調査を強化し、その結果を踏まえ、更なる減量化・資源化に向けた方策を検討します。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民、事業者、NPO、行政	今後10年間の先駆的な廃棄物行政のあり方を示す「北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づいて、市民、事業者、NPO、行政など地域社会を構成する各主体が連携・協働して取組みを進め、従来の「循環型」の取組みに「低炭素」「自然共生」の取組みを加えた「持続可能な都市のモデル」の実現を目指していきます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民1人一日あたりの家庭ごみ量 平成21年度:506g⇒平成32年度:470g以下 (最終目標と目標年度)470g以下(H32年度)		単年度の目標設定はありません	%	
	リサイクル率 平成21年度:30.4%⇒平成32年度:35%以上 (最終目標と目標年度)35%以上(H32年度)		単年度の目標設定はありません	%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成23年度に策定した「北九州市循環型社会形成推進基本計画」の目標達成のため、さらなるごみの減量とリサイクル率の向上に向けて、データを集積して最新の現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	計画全体の事業実施状況の把握 「北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づき実施された各事業について、その内容及び進捗状況等に関するデータを収集します。 事業所からの使用済み紙おむつ排出実態調査 高齢化等により今後増加が見込まれる事業系の使用済み紙おむつについて、基礎データ収集を目的とした排出実態調査(アンケート)を実施します。	-	目標設定はありません	395 施設	%

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	産業廃棄物対策室
課長名	井上
施策番号	
VI - 3 - (1) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業				
事業概要	北九州市内で発生する産業廃棄物の減量化及び適正処理推進のため、処理業者や排出事業者を対象とした講習会を開催します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		480 千円	千円		350 千円
				課長 0.00 人	
				係長 0.02 人	
				職員 0.02 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	市内の許可処理業者や多量排出事業者に対する講習会周知文の送付については、目標値をほぼ達成しており、この状態を継続していきたいと考えています。今後は、この活動を続けることで、市内2,000事業者の40%以上の講習会参加という成果目標の達成を目指します。	見直し内容 市内2,000事業者への講習会周知文の送付について、事業費は現状を維持しつつ、100%の達成率を目指します。講習会参加率40%以上(毎年度800人)という目標の達成を目指します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 産業廃棄物の処理業者や排出事業者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市内における産業廃棄物の処理等に関する情報を調査・提供することで、市内で発生する産業廃棄物の減量化・適正処理に関する意識の向上を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	産業廃棄物の処理業者や排出事業者を対象とした講習会への参加人数(単年度)		800 人			
	産業廃棄物の減量化及び適正処理に関する効果的な情報発信を行うための講習会を開催し、処理業者や排出事業者の意識の向上を図ります。過去の実績等を考慮し、市内2,000事業者のうち40%以上の参加を目標とします。 (最終目標と目標年度)800人(毎年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 産業廃棄物の減量化・適正処理に関する講習会への参加率向上を図るため、市内に所在する許可処理業者及び多量排出事業者に対して講習会周知文を送付します。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	講習会周知文を送付した許可処理業者及び多量排出事業者数		2,000 事業者		
	市内の全ての許可処理業者及び多量排出事業者に対して講習会周知文を送付し、参加人数の増加を目指します。			%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本
施策番号	
VI - 3 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	北九州エコタウン事業				
事業概要	資源循環型社会の実現に向けて、環境産業の集積化とリサイクル技術開発の拠点化を図るため、北九州エコタウン事業を推進します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		11,885 千円	千円		目金の金額
					課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.40 人
(人件費備考)					

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	H24年度は投資額・視察者いずれも順調であり、今後も更なる増加を目指します。	見直し内容 エコタウン事業への関心を高めるためパンフレットやDVDを使ったPRIにより力を要れ、視察者増加のために見学しやすい環境の整備を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) エコタウンを中心とした市内環境関連企業及び研究機関等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) エコタウンを基盤として、本市環境産業の新たな展開を図り、アジアの次世代資源循環型拠点を目指します。また、エコタウンへの視察者数の増加を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	エコタウン事業による投資額(単年度)		5 億円			
	エコタウン事業の高度化を図るためには新たな投資が必要であり、投資額を成果指標として設定します。 (最終目標と目標年度) 毎年5億円				%	
	北九州エコタウンへの視察者数(単年度)		10 万人			
	エコタウン事業への関心の高さやビジターズインダストリーという観点から、視察者数を成果目標として設定します。 (最終目標と目標年度) 毎年10万人			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 北九州市環境産業推進会議の新エコタウン部会において、エコタウン事業の高度化・高付加価値化に向けた会合を重ねると共に、新エコタウン部会の下にエコタウン高度化連携研究会やリチウムイオン電池リユース・リサイクル研究会などを設置し、社会システム構築に向けた研究や実証研究等を継続して行っていきます。また、視察についても、エコタウン企業を視察できる定型方を設定するなど、視察者が見学しやすい環境を整備していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	実証研究数		12 社			
	実証研究が増加することにより、リサイクル産業の高度化や育成を図ることができるため、実証研究の数を活動指標として設定します。				%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本
施策番号	
VI - 3 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	次世代資源循環型産業拠点形成推進事業				
事業概要	環境未来技術開発助成事業に「事業化チャレンジ枠」を設け、事業化目前の研究開発により手厚い支援を行うことにより、本市環境産業の新たな展開を図り、本市の新成長戦略にも位置付けられる次世代資源循環型産業拠点の形成を推進し、ひいては市内経済の活性化や、税収の確保、雇用の拡大等に繋げていきます。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		15,000 千円	千円		目金の金額
					課長 0.02 人
					係長 0.05 人
					職員 0.10 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	環境未来技術開発助成事業における平成24年度末時点の事業化数は20件、平成24年度の採択件数も12件と、成果指標・活動指標ともに目標を達成しており、事業は順調に進んでいますが、新成長戦略の推進に向け、さらに取組みを進めていく必要があります。	見直し内容 平成25年度、新たに本事業を立ち上げ、希少金属(レアメタル)・資源のリサイクルや新エネルギー・省エネルギー関連技術における事業化目前の研究開発を支援するため、新たに「上限額:2,000万円、助成期間:1年間、助成率:2/3」という枠組みの「事業化チャレンジ枠」を設けており、さらに事業化の促進を図っています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市内中小企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 事業化目前の研究開発への支援により、次世代資源循環型産業拠点の形成を推進し、市内経済の活性化、税収の確保、雇用の拡大等に繋がります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計:事業化チャレンジ枠分)		1 件 (H27年度末)		
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。			%	
	(最終目標と目標年度) 2件(H32年度末)				
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成26年度も、次世代資源循環型産業拠点の形成を推進し、市内経済の活性化、税収の確保、雇用の拡大等に繋げていくため、本助成制度を引き続き実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標
	本助成事業の採択件数(単年度:事業化チャレンジ枠分)		1 件
	上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。		
			%
			%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本
施策番号	
VI - 3 - (2) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	

事業概要					
事業名	環境未来技術開発助成事業				
事業概要	循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向け、市内における先進的かつ実現性の高い環境技術の研究を支援することにより、環境産業の振興を図り、我が国ひいては世界的な環境分野の課題の解決に先導的役割を果たすことを目指します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		53,818 千円	千円		目金の金額
					課長 0.03 人 係長 0.20 人 職員 0.30 人
					(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度末時点における事業化数は20件、平成24年度の採択件数も12件と、成果指標・活動指標ともに目標を達成しており、事業は順調に進んでいますが、新成長戦略の推進に向け、さらに取組みを進めていく必要があります。	見直し内容 本事業は引き続き実施するとともに、平成25年度から新たに「次世代資源循環型産業拠点形成推進事業」を立ち上げ、希少金属(レアメタル)・資源のリサイクルや新エネルギー・省エネルギー関連技術における事業化目前の研究開発を支援するため、新たに「上限額:2,000万円、助成期間:1年間、助成率:2/3」という枠組みの「事業化チャレンジ枠」を設けており、さらに事業化の促進を図っています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市内中小企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証研究等に対して、その研究開発費の一部を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計:事業化チャレンジ枠分を除く)		22 件			
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。 (最終目標と目標年度) 28件(H32年度末)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成26年度も、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図るため、本助成制度を引き続き実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	
	本助成事業の採択件数(単年度:事業化チャレンジ枠分を除く)		10 件	
	上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。			%
				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田
施策番号	
VI - 3 - (3) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	北九州市民環境パスポート事業				
事業概要	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するため、買物の際に参加店でレジ袋を断るとポイントシールがもらえ、20ポイント貯まると参加店で50円の割引券として利用できる「キャンパスシール事業」を実施します。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	10,200 千円	千円			3,575 千円
				課長 0.05 人	
				係長 0.15 人	
				職員 0.20 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成26年度末で終了予定としているキャンパスシール事業について、お断り率等から一定の成果をあげていると考えられますが、事業終了後どのような形でこの成果を継続、向上できるか検討します。	見直し内容 キャンパスシール事業の今後について、有識者や関係団体で構成する「北九州市民環境パスポート運営協議会」において、多数の市民、事業者へレジ袋削減に取り組んでいただけるような制度を検討します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供することにより、家庭ごみの減量化の推進を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	キャンパスシール等によるレジ袋お断り率(単年度)					
	レジ袋のリデュースによるCO2削減効果に結びつくとともに、市民の身近な環境活動への参加状況を表す指標とします。 (最終目標と目標年度)各店舗の独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含んだお断り率としてH26年度に27%			27.0 %	%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	継続して積極的な広報活動を行い、市民の環境活動への参加を働きかけることにより、平成26年度までに各店舗で独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含めたお断り率として27%を目指して取り組んでいきます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	広報活動の実施				
	市民の環境活動への参加及び事業終了の周知を図るため、積極的な広報活動を行います。		目標設定はありません	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田
施策番号	
VI - 3 - (3) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他

事業概要					
事業名	3R活動推進事業				
事業概要	市内の一般廃棄物大量排出事業者や大規模事業所等の所有者等に対する資源化・減量化計画書の提出による一般廃棄物の減量化・資源化、適正処理の推進や、個人、市民団体、事業者が行う3R活動を奨励する3R活動推進表彰など、廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を推進します。				コスト
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		1,058 千円	千円		目金の金額 課長 0.05 人 係長 0.15 人 職員 0.70 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	H25年度までに、7回の3R活動推進賞や資源化・減量化優良事業所賞等の表彰を行い、市民や企業の日常生活に3Rが定着してきていますが、さらに多くの市民の3R意識が高まる取組みを検討していきます。	見直し内容 3R活動推進表彰の応募について、ホームページを活用するなど、より多くの市民が参加できる取組みを検討します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民、企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 事業者による減量化・資源化に関する計画書の提出、3R活動推進表彰の実施等を通じ、3R活動に対する意識の向上やリサイクル率の向上を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	事業所から排出される一般廃棄物の資源化率の向上		単年度の目標設定はありません	%	
	事業所に係る資源化・減量化計画書を作成することで、各事業所から発生する廃棄物の減量化・資源化や適正処理を定期的に点検し、廃棄物の減量化・資源化率の向上を図ります。 (最終目標と目標年度)H32年度に事業系ごみの8%削減、及び資源化物(事業系)20%増(対H21年度比)。単年度の目標ではなく、最終目標に向けた総合的な取組みを行っています。		3R意識の醸成を図ります	%	
	ごみの減量やリサイクルなどの3R活動の推進 廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を積極的に取り組んでいる個人、市民団体、事業者を表彰し、これらの活動を奨励します。 (最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	事業所から排出される一般廃棄物のリサイクル率の向上を図るため、提出対象事業所の全事業所に資源化・減量化計画書の提出を求めるとともに、訪問調査を行います。また、3R活動に対する意識の向上を図るため、3R活動推進表彰を実施します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	事業所から排出される一般廃棄物の適正処理の点検		目標設定はありません	%	
	資源化・減量化計画書の提出に加え、必要に応じて訪問調査を行います。		目標設定はありません	%	
	3R活動推進表彰に関する市民への広報活動 募集時に、各区・市民センター等へのリーフレット配布のほか、かえるプレス等で3R活動推進賞受賞団体を紹介します。			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原
施策番号	
VI - 4 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	生物多様性戦略推進事業				
事業概要	都市と自然の共生を基本理念とし、「都市のための自然、自然のなかの都市」の実現のため、豊かな自然環境と生物の多様性を保ちつつ、新たな産業都市として持続的な発展が可能な都市づくりを目指します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		19,153 千円	千円		目金の金額
					課長 0.10 人 係長 0.25 人 職員 1.00 人
(人件費備考)					

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	多様な自然を保全していくために、市民・団体等の自主的な環境保全活動や市民・団体等との協働による取組みが重要であると同時に、自然環境保全について、継続してPRし、市民の自然環境保全に対する意識の向上を目指していくことが必要です。	見直し内容 市民に自然環境保全についてPRする手法の1つであるエコツアーの開催について、市主催だけでなく、NPO等が開催する様々な角度から実施するエコツアーを広報し、多くの方の参加を推進します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 北九州市の自然環境	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 多様な自然の保全に努め、都市と自然が共生したまちを目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数)		2,000 人			
	多様な自然環境を保全するためには、市民・市民団体との協働が欠かせませんが、北九州市自然環境保全ネットワークの会の活動を促進し、自然ネットだより等の活用により、会員相互の情報の共有を行うことで、様々な保全活動への参加者数を増やします。 (最終目標と目標年度)様々な保全活動に対し2,000人/年間の参加を目指します。				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進します。 自然環境保全に取り組む市民・地域団体等に助成(毎年10団体程度)することで、自主的な自然環境保全活動の推進を図ります。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	環境首都100万本植樹プロジェクト植樹本数(累計植樹本数)					
	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。 (指標は累計で示す)			67,000 本		
	自然環境保全活動の支援			10 団体		
	自然環境保全の分野では市民、地域団体の自主的な活動の活性化が不可欠ですが、資金不足などの問題から活動の開始に踏み切れず、また活動の継続が難しくなっている団体などに対して、毎年一定数(10団体程度)の団体に助成することで、活動の推進が図れます。			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原
施策番号	
VI - 4 - (1) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
課長	0.10 人
係長	0.25 人
職員	1.00 人
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	生物多様性戦略推進事業				
	都市と自然の共生を基本理念とし、「都市のための自然、自然のなかの都市」の実現のため、豊かな自然環境と生物の多様性を保ちつつ、新たな産業都市として持続的な発展が可能な都市づくりを目指します。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	19,153 千円	千円			11,150 千円

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	多様な自然を保全していくために、市民・団体等の自主的な環境保全活動や市民・団体等との協働による取組みが重要であると同時に、自然環境保全について、継続してPRし、市民の自然環境保全に対する意識の向上を目指していくことが必要です。	見直し内容 市民に自然環境保全についてPRする手法の一つであるエコツアーの開催について、市主催だけでなく、NPO等が開催する様々な角度から実施するエコツアーを広報し、多くの方の参加を推進します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市の自然環境	多様な自然の保全に努め、都市と自然が共生したまちを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数)		2,000 人	%	
	多様な自然環境を保全するためには、市民・市民団体との協働が欠かせませんが、北九州市自然環境保全ネットワークの会の活動を促進し、自然ネットだより等の活用により、会員相互の情報の共有を行うことで、様々な保全活動への参加者数を増やします。 (最終目標と目標年度)様々な保全活動に対し2,000人/年間の参加を目指します。				%

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進します。 自然環境保全に取り組む市民・地域団体等に助成(毎年10団体程度)することで、自主的な自然環境保全活動の推進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	環境首都100万本植樹プロジェクト植樹本数(累計植樹本数)		67,000 本	%	
	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。 (指標は累計で示す)				%
	自然環境保全活動の支援		10 団体	%	
	自然環境保全の分野では市民、地域団体の自主的な活動の活性化が不可欠ですが、資金不足などの問題から活動の開始に踏み切れず、また活動の継続が難しくなっている団体などに対して、毎年一定数(10団体程度)の団体に助成することで、活動の推進が図れます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原
施策番号	
VI - 4 - (1) - ③	
事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	()
	()
	()
	()

事業概要					
事業名	響灘ビオトープ運営等事業				
事業概要	本市の豊かな自然環境の保全など、様々な自然分野の取り組みを推進するため、生物多様性基本法に規定される地域戦略として策定した「北九州市生物多様性戦略」の主要プロジェクトに位置づけている響灘ビオトープの運営管理等を行う事業です。絶滅危惧種など希少な動植物が500種類以上も生息する生物の楽園を保全しつつ、市民に見て触れて、自然生態系の仕組みや生物多様性の重要性などが学習できる施設です。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目金の金額	課長 0.10 人 係長 0.25 人 職員 0.40 人
事業費	47,868 千円	千円		6,650 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	オープンイベント等を通じて、自然環境学習施設としての響灘ビオトープの存在を広めることができました。今後は、響灘ビオトープを通じて、市民の環境に対する意識を高める活動を進める必要があります。	見直し内容 平成26年度より指定管理者制度を導入することで、環境学習施設としての響灘ビオトープの運営、管理に民間のノウハウ等を導入し、魅力ある施設としての運営管理を行っていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	響灘ビオトープ	緑の拠点としての響灘ビオトープを自然環境教育の場として提供するため、必要な整備(園内環境整備、イベント企画等)を行い、生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」を実現します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」の実現	-	単年度目標なし	%	
	緑の拠点として自然とのふれあいの場、自然環境教育の場としてビオトープを活用し、市民の環境に対する意識を高めます。 (客観的に判断できる数値内容については今後検討します。)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	指定管理者制度を導入することで、響灘ビオトープの運営管理体制を整えます。また、北九州市の生物多様性の保全等に関するイベントを企画し、市民に自然環境教育の場を提供します。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数		4,000 人	%		
	来園者に対し、生物多様性の重要性について学べるガイドツアーを行っており、その参加人数を指標としました。1日に15人程度がガイドツアーに参加することを見込んでいます。(指定管理者募集要項の要求水準を目標としました)		回	%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	監視指導課
課長名	二宮
施策番号	
VI - 4 - (2) - ①	
■ 直営	<input type="checkbox"/> 補助金
<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> 負担金
■ 一部委託	<input type="checkbox"/> 指定管理
<input type="checkbox"/> その他	()

事業概要					
事業名	不法投棄防止事業				
	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視パトロール、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		17,476 千円	千円		目金の金額
					課長 0.20 人
					係長 1.10 人
					職員 0.30 人
(人件費備考)					

【Action】改善			
課題	H24年度の 評価結果 を受けて の課題	不法投棄件数は、経年的に減少傾向にあるが、依然見られています。	見直し内容
			今後も、監視パトロール、監視カメラ整備及び市民通報員の活用を継続し、不法投棄物の早期発見・早期撤去を進めていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	産業廃棄物の不法投棄	未然防止、早期発見及び拡大防止を図ります。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	廃棄物の不法投棄量(単年度)		160 t以下	%		
	市内で不法投棄された廃棄物の量。監視パトロール、監視カメラ設置、市民通報員の活用、警察との連携等の施策の結果、廃棄物の不法投棄が減ったことを表す指標として、不法投棄量を設定しました。 (最終目標と目標年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって 目的を達成するか	不法投棄の未然防止及び早期発見のため、監視パトロールを実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	監視パトロールの実施回数		320 回	%		
	不法投棄の未然防止及び早期発見のため、夜間(概ね月2回・3班:84回)、土日(概ね月1回・3班:36回)及び早朝・深夜(民間警備会社:200回)に、不法投棄されやすい箇所を中心に市内全域のパトロールを実施します。(回数は平成26年度計画)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境保全課
課長名	作花
施策番号	
VI - 4 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	大気汚染常時監視システム整備事業				
事業概要	大気汚染防止法22条の規定に基づく環境大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センター及び市内21ヶ所に設置した常時監視測定局から成る測定網を整備します。調査結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、環境の質の現状維持に努めています。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		10,887 千円	千円		目安の金額
					課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.60 人
					6,075 千円

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度は計画通りに事業が進捗しました。平成26年度も計画どおり測定環境を整備し、環境質の現状維持に資するよう努めていきます。今後は事業内容を維持しながら、費用を削減することが課題であると考えます。	見直し内容 計画通り測定環境を整備するとともに、課題解決に向け、分割化している更新計画の見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民の健康	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 良好な大気環境を維持することで、市民の健康保護及び生活環境を保全します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	環境の質の現状維持	現状維持	現状維持		
	二酸化いおう等による大気汚染の状況把握のため、連続測定を実施し、環境の質の現状維持に努めます。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・測定局5局の借り入れ及び保守(H20-26) ※大気汚染常時監視システムの一括更新については、別事業にて、平成25年度に更新設計、平成26年度に更新作業、平成27年度より新システムの稼働を計画しています。また、当該別事業では、システム更新までの間、リース期間の終了した公害監視センター及び測定局16局の監視システムの保守を行っています。	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 良好な大気環境を維持することで、市民の健康保護及び生活環境を保全します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	大気汚染常時監視の測定環境の整備	測定の実施	測定の実施		
	大気汚染常時監視システムについて、更新計画に基づき、効率的な測定環境を整備し、測定を継続実施します。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境保全課
課長名	作花
施策番号	
VI - 4 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他

事業概要					
事業名	環境対策事業				
事業概要	環境基本法等の環境法令や公害防止条例に基づき、大気汚染、水質汚濁、騒音振動等の監視測定(環境モニタリング)等を行い現況把握します。その結果に基づき、本市の環境保全施策を検討、実施し、環境質の現状維持・向上に努めます。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	
		69,048 千円	千円		
				人件費	目金の金額
					課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.90 人

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 環境モニタリングにより、測定結果や知見の集積が行われ、環境質が現状維持されており、従来の環境保全の取組みの有効性が確認されました。本事業は、環境基本法等の規定に基づき、必ず市が行う必要がありますが、経済性、効率性が求められています。	見直し内容 測定結果や知見の集積を行い、環境の質の維持に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民の健康	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 良好な大気環境及び水質環境等を維持することで、市民の健康保護及び生活環境を保全します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	環境の質の現状維持	現状維持	現状維持	%	
	生活環境の保全のため、大気、水質、騒音、振動について、環境モニタリング計画を立て測定を実施し、環境の質の現状維持に努めます。 (最終目標と目標年度)				
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 大気汚染、水質汚濁、騒音振動等の環境モニタリング等を実施します。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	大気環境モニタリングの実施	測定の実施	測定の実施	%	
	大気、騒音、振動について、環境モニタリング計画を立て測定を実施します。				
	水環境モニタリングの実施	測定の実施	測定の実施	%	
河川、海域等の水質について、環境モニタリング計画を立て測定を実施します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原
施策番号	
VI - 4 - (2) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	ノーマイカー普及戦略事業				
事業概要	過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進します。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目金の金額	課長 0.10 人
	450 千円	千円		4,650 千円	係長 0.20 人 職員 0.20 人
(人件費備考)					

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 順調に参加者数、CO2削減量ともに増加しています。今後も継続し、普及を図ります。	見直し内容 限られた予算の中で、引き続き普及を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民、企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進し、自動車から排出されるCO2を削減します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	ノーマイカーデー参加者数(単年度)		前年度水準を維持		
	マイカー通勤者を主な対象として、参加企業数及び参加者数を維持します。 (最終目標と目標年度)			%	
	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量(単年度)		前年度水準を維持		
ノーマイカーデー実施によるCO2削減量(単年度) (最終目標と目標年度)		%			

活動計画	どうやって目的を達成するか 横断幕の設置やチラシの配布によるPR、企業訪問などを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標
	PRの実施		効果的なPRを実施します。
	横断幕の設置やチラシの配布によるPR、企業訪問などを行います。		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原
施策番号	
VI - 4 - (2) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	

事業概要					
事業名	エコドライブ推進事業				
事業概要	自動車から排出されるCO2削減のため、企業内でのエコドライブ活動を支援するとともに市民へのエコドライブの普及啓発を図ります。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	688 千円	千円			課長 0.10 人 係長 0.40 人 職員 0.50 人
					(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 順調に参加者数、CO2削減量ともに増加しています。今後も継続し、普及を図ります。	見直し内容 限られた予算の中で、引き続き普及を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民、企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自動車から排出されるCO2の削減		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	エコラ北九州プロジェクト参加事業者のCO2削減量(単年度)		前年度水準を維持		
	参加事業者のCO2の削減量 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	市内事業者へのエコドライブ活動の普及のため、「エコラ北九州プロジェクト」を実施し、エコドライブ活動の支援を行います。優良活動企業には市からの認定や表彰を実施します。また市民向けに出前講演を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	エコラ北九州プロジェクト参加事業者数		前年度水準を維持		
	エコドライブ活動に取り組む市内事業者数			%	
	市民向けのエコドライブの普及啓発(各活動の参加者の合計)		前年度水準を維持		%
アイドリングストップ運動への参加者数、出前講演の受講者数					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本
施策番号	
VI - 4 - (2) - ②	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	課長 0.10 人
	係長 0.40 人
	職員 0.50 人
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	電気自動車等導入助成事業				
事業概要	環境に優しい電気自動車やプラグインハイブリッド自動車の普及のため、市民や事業者の車両導入経費の一部を助成します。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人
	3,000 千円	千円		8,900 千円	係長 0.40 人 職員 0.50 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	電気自動車やプラグインハイブリッド自動車の普及は、平成25年9月末で市内に約630台(市内の登録車両の0.1%程度)と伸び悩んでいる状況であり、継続して助成制度を実施する必要があります。	見直し内容 継続して、助成制度を実施します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民・市内企業	平成28年度までに市内で6,000台の普及を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	市内における電気自動車等の普及台数(累計)				
	市内の電気自動車等の普及台数 (最終目標と目標年度)H28年度までに市内で6,000台		1,000 台	%	
	電気自動車等へ転換した場合のCO2削減量(累計) (平成26年3月末の電気自動車等普及台数) × 1.85t(ガソリン車から電気自動車へ転換した場合のCO2排出係数) (最終目標と目標年度)H28年度までに11,100t削減		1,850 t	%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 電気自動車等の助成制度を継続し、市民や市内企業への導入を促します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)
	電気自動車等の助成件数			
	市民や市内企業に対する電気自動車等の購入助成を行います。	55 台	50 台	%
				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本
施策番号	
VI - 4 - (2) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	水素供給拠点形成事業				
事業概要	燃料電池自動車普及の基盤となる水素ステーションの立地を促進するとともに、水素製造や利用方策等について研究を行います。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目金の金額	課長 0.10 人
	3,000 千円	千円		4,650 千円	係長 0.20 人 職員 0.20 人

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 2015年から本格生産が開始される燃料電池自動車(FCV)普及の基盤となる水素ステーションは、今後、全国的に整備が進められる見通しであり、本市においても積極的に立地を促進する必要があります。	見直し内容 —

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 水素ステーション	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市内に数多く整備され、燃料電池自動車の普及が進んでいる状態を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	水素ステーションの立地件数		1 カ所			
	市内における水素ステーションの立地件数を指標とします。 平成32年度までに5カ所の設置を目標とします。 (最終目標と目標年度) 5カ所(32年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 水素供給事業者に対し、積極的な誘致活動を展開します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	企業訪問件数		20 件			
	企業を訪問し、適地情報等を収集するとともに、水素供給事業者に本市立地のメリットを提案し、水素ステーションの立地につなげます。				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	監視指導課
課長名	二宮
施策番号	
VI - 4 - (2) - ③	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	工場・事業場監視事業				
事業概要	市内の工場・事業場に対し、大気汚染防止法・水質汚濁防止法に基づいて、立入検査及び排ガス・排水中の規制項目に関する測定を実施し、事業者の環境法令の遵守を監視するとともに、環境管理の取り組みを促進するよう促すものです。また、一般市民からの公害関係苦情・要望を受け、発生源指導を行うものです。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
	20,610 千円				56,300 千円
					課長 0.20 人 係長 1.20 人 職員 5.60 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	公害に関する苦情の件数は、この数年減少傾向にあるものの、市民からは継続的に寄せられています。	見直し内容 工場・事業場への立入検査、排ガス測定などは今後も継続する必要がある。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 大気汚染防止法、水質汚濁法等の環境法令の規制を受ける工場・事業場	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 法令遵守の徹底を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 大気、水質、悪臭、騒音等公害に関する市民からの苦情・要望件数 安心して暮らせる快適なまちづくりを示す指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
		件	380 件以下	%	
				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 工場・事業場に対する施設・運転管理状況等確認のための立入検査及び排ガス・排水等の測定		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 工場・事業場に対する立入検査、測定の実施件数(大気、悪臭及び水質に限る) 立入検査や行政測定の対象とする工場・事業場及び検体数延べ約600のうち平成26年度は420件について対応することを目標としました。	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
			420 件	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境保全課
課長名	作花
施策番号	
VI - 4 - (2) - ④	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他

事業概要					
事業名	大気汚染常時監視システム整備事業				
事業概要	大気汚染防止法22条の規定に基づく環境大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センター及び市内21ヶ所に設置した常時監視測定局から成る測定網を整備します。調査結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、環境の質の現状維持に努めています。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		10,887 千円	千円		目金の金額
					課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.60 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度は計画通りに事業が進捗しました。平成26年度も計画どおり測定環境を整備し、環境の現状維持に資するよう努めていきます。今後は事業内容を維持しながら、費用を削減することが課題であると考えます。	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold; margin-right: 5px;">見直し内容</div> <div>計画通り測定環境を整備するとともに、課題解決に向け、分割化している更新計画の見直しを行います。</div> </div>

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民の健康	良好な大気環境を維持することで、市民の健康保護及び生活環境を保全します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	環境の質の現状維持	現状維持	現状維持		
	光化学オキシダントや微小粒子状物質(PM2.5)等による大気汚染の状況把握のため、連続測定を実施し、環境の質の現状維持に努めます。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・測定局5局の借り入れ及び保守(H20-26) ※大気汚染常時監視システムの一括更新については、別事業にて、平成25年度に更新設計、平成26年度に更新作業、平成27年度より新システムの稼働を計画しています。また、当該別事業では、システム更新までの間、リース期間の終了した公害監視センター及び測定局16局の監視システムの保守を行っています。	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold; margin-right: 5px;">活動の状況</div> <div>活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック</div> </div>	活動の状況	活動の状況 評価理由	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	大気汚染常時監視の測定環境の整備	測定の実施	測定の実施		
	大気汚染常時監視システムについて、更新計画に基づき、効率的な測定環境を整備し、測定を継続実施します。			%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点 </div>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保
施策番号	
VII - 1 - (3) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	環境国際協力推進事業				
事業概要	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施します。また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施します。更には国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指すものです。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	3,000 千円	千円			6,650 千円
				課長 0.10 人	係長 0.10 人
				職員 0.60 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	国際協力事業の実施の目標3件に対して4件を実施しました。今後は国際機関等と密に連携し、より効果的な事業実施を目指します。	見直し内容 引き続き、より効果的の高い事業実施を目指します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	本市	国、国際機関等の補助事業を活用しながら、環境国際協力の実施を通じた地球環境保全、地球規模での持続可能な社会実現、北九州地域の活性化に資することにより、世界の環境首都の実現を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	戦略的国際環境協力事業の件数(単年度)				
	本市が有する都市間ネットワークを活用した戦略的な環境分野に関するプロジェクトを実施し、国際機関等と連携を密にして、協力対象国や都市の「緑の成長」に資する環境国際協力を目指します。 (最終目標と目標年度)平成28年度までに年間事業数6件を目指します。	-	1 件	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力推進事業を活用し、廃棄物分野や環境教育分野において事業を展開していきます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	マレーシア国廃棄物管理総合マネージメントプログラムの実施				
	マレーシア国固型廃棄物公社が目標として掲げている「2015年末までに最終処分場への廃棄物搬入量を40%削減する」を達成するため、政策立案、人材育成等の国際協力を実施する。	-	-	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保
施策番号	
VII - 1 - (3) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)

事業概要				
事業名	アジアの環境人材育成拠点形成事業			
事業概要	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、人材育成に向けてJICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していくものです。 本市の環境国際協力の原点である環境人材育成は、「世界の環境首都」を目指す本市の取組の一貫であり、海外からの研修員を受け入れることにより、世界的規模で進んでいる環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋がるものです。			
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)
		2,218 千円	千円	
			目金の金額	課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人
			4,400 千円	(人件費備考)

【Action】改善				
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	研修の受講者数は当初の目標(420人)を大幅に上回る900人を達成しました。引き続き研修の充実化を図るとともに、国内外での研修誘致に努めます。	見直し内容	国内外への職員派遣の際に、研修誘致のための活動を併せて実施することにより、積極的な研修誘致活動を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	本市	アジア地域の行政官を対象に研修を実施することにより、現地での環境改善において中心的な役割を果たす人材を育成するとともに、本市職員・関係機関職員の能力開発を行うことで、アジアの環境人材育成拠点を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数					
	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、本市において環境人材育成を行います。あわせて、海外において指導できるよう、本市の環境人材を育成します。 (最終目標と目標年度)H24~H28年度 2,200人受入		450 人		%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成24年度から平成28年度までの5年間に、2,200人の研修員を受け入れるため、国内外での研修誘致活動を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	国内外での北九州市への研修誘致					
	市職員を国内外に派遣し、公害を克服した本市の技術、ノウハウや環境政策のPR、研修誘致を行います。		—		%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保
施策番号	
VII - 1 - (3) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	日中大気汚染・省エネ対策共同事業				
事業概要	喫急の課題である中国におけるPM2.5(微小粒子状物質)等をはじめとする大気汚染対策については、科学的な分析が必要であり、そのためには、PM2.5等による大気汚染状況について、その発生源を含めて複合性、広域性、移動性、気象条件などの他、地域住民の健康被害等を含めた具体的な現状の課題等を把握し対策を講じる必要があります。国の支援のもと、平成26年度、27年度の2か年で実施し、平成26年度は、大気状況等の現状を把握・分析するための専門家の派遣や、中国側の技術者等の資質向上を目的とした研修生の受け入れを実施します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		33,200 千円	千円		目金の金額
					課長 0.30 人 係長 0.50 人 職員 1.00 人
					15,950 千円

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	中国において、大気汚染問題が深刻化しており、物理的に近い本市にも越境大気汚染による影響が及ぶ可能性があると考えられます。	見直し内容

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	中国のPM2.5(微小粒子状物質)をはじめとする大気汚染対策	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
			中国の大気汚染対策に協力することで、現地の環境改善に寄与します。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	現地の環境改善				
	日中研究機関等による共同の調査研究を通じ、大気汚染問題における現状把握・課題抽出を行うと共に、専門家派遣や研修員受入を通じて現地の環境改善を目指します。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	日中研究機関等による共同の調査研究を通じ、大気汚染問題における現状把握・課題抽出を行うと共に、専門家派遣や研修員受入事業を実施します。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	専門家派遣人数		延べ20 人			
	専門家を現地に派遣し、技術指導や政策提言を行います	-		%		
	研修員受入人数		延べ20 人			
	研修員を受け入れ、本市の環境政策講義や環境関連施設の視察を通じ、行政官や技術員の資質向上を目指します	-		%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	吉村
施策番号	
VII - 2 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
課長	2.45 人
係長	3.40 人
職員	3.40 人
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	アジア低炭素化センター推進事業				
	環境モデル都市に掲げた温室効果ガス削減目標を達成するため、平成22年6月に開設された「アジア低炭素化センター」の事業を推進し、環境に資する多様な技術等を海外に移転することで、地域経済の活性化を推進し、アジア地域の低炭素化社会の実現を目指すものです。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	33,816 千円	0 千円			87,675 千円

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	H24年度は活動指標のプロジェクト推進数及び企業協議、ビジネスマッチング数ともに目標を上回り、活動状況は順調と判断しました。成果指標の達成及び市内環境技術の付加価値を高め、技術輸出を促進するために、事業実施によって削減された、CO2をはじめとする温室効果ガスの削減量の定量化(見える化)に引き続き取り組んでいきます。	見直し内容 アジア地域でのCO2削減に向けて、引き続き各種プロジェクトの推進及びビジネスマッチング等の支援を行っていきます。プロジェクト推進にあたっては、北九州モデルを活用してパッケージ型のインフラ輸出を推進していくとともに、国等からの調査受託事業を活用し、本市の経費負担削減に努めていきます。また、個別事業ごとの定量化手法を作成することで、温室効果ガス削減量の定量化に取組んでいきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	
	アジア地域	企業のビジネス展開を支援し、アジア地域でのCO2排出量を削減します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	アジア地域でのCO2排出量を削減		単年度目標設定なし		
	2050年までに、本市の2005年比で、150%相当のCO2排出量を、アジア地域で削減することを目標とします。			%	
	(最終目標と目標年度) 150%削減(2050年)			%	
	(最終目標と目標年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか	国からの調査受託事業などを活用するなど、市内企業とともに各種のプロジェクトを実施します。また海外でのビジネス展開を図るため、国内外の商談会への参加支援などを実施します。さらに、海外の各機関、各都市との連携協力を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	プロジェクト推進数		65 件		
	国からの調査受託事業を活用するなど、市内企業とともに各種のプロジェクトを実施します。			%	
	企業協議、ビジネスマッチング数		430 件		
市内企業の海外でのビジネス展開を進めるため、企業との協議を実施するほか、同センターが仲介し、市内企業と相手企業とのビジネスマッチング等を行うことで、ビジネスを支援します。		%			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	本島
施策番号	
VII - 2 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考) 担当課のみ。ただし業務の一部を委託しています。	

事業概要						
事業名	中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業					
事業概要	アジア地域等の海外に低炭素化技術の輸出を目指す市内中小企業を対象に、自社が所有する既存の技術・製品を、海外でのニーズに合わせた現地での実証試験、または事業可能性調査(FS)に要する費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図ります。					
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
		8,750 千円	千円			2,325 千円
					課長 0.05 人	係長 0.10 人
					職員 0.10 人	

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 成果指標目標2件に対して、H24年度4件、H25年度2件を採択。経済性・効率性についても、業務の一部を委託するなどして迅速で効率的な事業運営に努めています。	見直し内容 来年度についても引き続き、適正で効率的な事業実施に努めていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	アジア地域等の海外に低炭素化技術の輸出を目指す市内中小企業	自社が所有する既存の技術・製品を、海外でのニーズに合わせた現地での実証試験、または事業可能性調査(FS)に要する費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図ります。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	海外での実証事業等の進出数(単年度)		2 件			
	本事業は、市内企業の海外への技術輸出の推進を目的として費用の一部を助成するもので、「海外での実証事業等の進出数」を成果指標とします。なお、本来はビジネスでの進出数が指標として望ましいのですが、まずは実証事業等の実績を着実に積み重ねることで、将来的なビジネス進出につなげたいと考えています。				%	
	(最終目標と目標年度)H27年度まで 10件				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 5月から事業の公募を行い、6月に採択企業を決定します。各企業の事業進捗状況の確認を行い、経費の執行状況についても適宜検査します。また、各企業の事業完了後に事業内容の報告を受けるとともに精算を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	
	申請書のダウンロード数		10 件	
	本事業の認知度を判断します。事業を広く周知することで、市内企業の海外展開への意欲向上を図ります。			%
	採択企業の事業の進捗状況確認件数		2 件	%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	佐々木
施策番号	
VII - 2 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)担当課のみ。ただし、業務の一部を委託します。	

事業概要					
事業名	「北九州モデル」を活用した都市環境インフラビジネス推進事業				
事業概要	本市に蓄積された都市環境インフラに係る技術や行政ノウハウ等を体系的に整理した「北九州モデル」を活用し、「北九州市新成長戦略」及び国の「国家戦略特区」(申請中)に掲げた都市インフラビジネスを推進する事業をアジアの新興国で展開します。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		30,000 千円	千円		目安の金額
					課長 0.50 人 係長 0.50 人 職員 0.50 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	「北九州モデル」を活用して、現地ニーズに適用したマスタープラン策定支援を着実に実施し、環境インフラビジネスを更に拡大していくことが課題となります。	見直し内容

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 環境技術を有する市内企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市内企業等が海外進出しやすい環境を整備することによって、海外での事業化が進み、地元企業の業績が拡大します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	グリーンシティの輸出を海外の都市に展開		単年度目標設定なし		
	現在、グリーンシティの輸出を推進しているインドネシア・スラバヤ市に続く第2、第3の都市へ事業展開を図ります。			%	
	(最終目標と目標年度) 平成28年度までに3都市に輸出			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成26年度は、ベトナム国・ハイフォン市における案件形成調査及びタイ国・工業団地における基礎調査を行い、事業を推進します。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	ベトナム国・ハイフォン市での案件形成調査		パイロット事業計画の検討、作成		
	(1)「(仮称)北九州市・ハイフォン市グリーンシティ推進会議」による方針決定 (2)分野別ワーキンググループ(廃棄物、エネルギー、上下水、環境保全)におけるパイロット事業の検討、計画作成			%	
	タイ国・工業団地での基礎調査		調査実施し、戦略検討		
	(1)工業団地の現状把握 (2)ニーズ調査			%	
	(3)都市環境インフラビジネス戦略の検討			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>